

書 評

天気予報三十年 大谷東平著
新書版 250頁 130円
法政大学出版局 1955年初版

“予報屋のたわごと”，“気象人の生活”，“気象物知り帖”，雨乞いから人工降雨まで，“生活と気象”の5部から成る。多忙な日常の間に書いた軽いものも多いが、やはり台風と取り組んで30年の経歴から生れた意見と議論、例えば‘予報官の怒り’、‘台風予報の敗北’などが最も迫力もあり個性が出ていて読ませる。満州放浪中の感情がちらりとのぞいている‘お水取りと春のさきがけ’、簡潔な筆ながら日本の秋の気候を見事に描写した‘秋空’に著者の心境がうかがわれるけれども、他の項目にももっと感情を入れてもよいと思う。もっとも故土佐林氏を憶う‘お前と俺の25年’、気象界を去る人々を画く‘見返る柳’にこまやかな感情が滲み出ている。ラバウルの難飛行‘止風線に突っ込む’は実に面白い読物で、もっと書いて欲しかった。第3～5部に見られる広い見透しと見識は感歎のほかはないが、中でも‘天皇と津波’、‘列車内の気流’がよい。気象人ならば読み出したら止められぬ好著。各項に掲載日付を入れれば著者の思考のあとを追って行けるから好都合とは評者同僚の言。(佐貫亦男)

後氷期の世界 湊 正雄著 B6—219頁 280円
1954年6月 築地書店

本書は氷期と後氷期に関係した問題を興味深くのべたすぐれた解説書である。

北欧では最近後氷期の問題を地質学者だけでなく、広く気候学、測地学などをはじめ、地球物理学、地形学、土壌学、あるいは生物学、人類学、考古学などの分野の人たちが協力してとり上げ、着実な研究を進めている。日本でも第四紀研究連絡委員会などが、この方面の研究をとり上げはじめ、とくに火山学方面の人たちがこの方面の研究とむすびついてかなりの成果をあげている。各方面の研究の持ちよりと、総合がどのような学問的成果となってあらわれるかということを知り得る。

日本アルプスや北海道の山々に残る氷河地形の山相や、日本列島周辺の陸棚にみられる海底谷の問題など、氷期と後氷期の解氷の現象にかたく結びついた問題なのである。「地層学」などの名著によって知られた著者はバルト海沿岸の土地の隆起の問題から説き起し、ちやうど沢山の手がかりから最後の結論を推理してゆく探偵小説的手法で、興味深く日本の問題にもメスを入れてゆく。気象学を学ぶものにも、この書物によって容易に気象学に隣接した学問の総合的な探究の方法を学ぶことができるので、一読して参考になる点が多い。(J)

大空の科学 伊藤暹自著
A5 190頁 290円
1955年 同和春秋社

気象関係の著書が数ある中で本書は大空というテーマの中に萬象を把握しようとする冒険を試みて、成功している本である。「皆さんじっと大空を見つめたことがありますか」と冒頭に読者層を少年少女にしぼって書き出し、「雲に関する学問は今まで長年かかって行われてきた単なる分類や観測だけでは解決のつかないところにきているようです」と締めくくっているところを見ても、著者が最初、中学生あたりを念頭に置いて書き出した内容が、途中から相当な高い学問の内容に及んでいるむきがある。大空の形から、飛行機、気球の発達史、風船爆弾、水爆の実験、大気の構造、空の色、空気のあわ、にじの話、空気の成分、日がさ、月がさ、雲の形、本の名に及んで筆を止めている。纏め方もうまいし、一番近より易く感ずるのは豊富に使用している写真や挿絵である。べらべらうまくっていても充分楽しめる本である。だがこの本の内容がこのまま子供達の頭に受入れられるかといわれるといささか疑問がないでもない。これでも子供達にはまだむずかしいと思われる。この本は子供達より、先生か父兄にむしろおすすめしたい本である。全体にわたって溢れている、著者の認識とあたたか味は伊東暹自氏そのものの影絵にも見える。唯一つ本書は文部省の気象教程の(小中学の単元としての)参考書に当たっているとは決して思われぬ。こういう点では儲けることを無視したのかどうかは知らないが、このような良書を世に出した同和春秋社に敬意を表する。(藤原寛人)

(8頁よりつづく、山本氏参考文献)

参 考 文 献

- [1] W. Rau, Suhrift. Deut. Akad. Lnft. 8, 65, (1944).
- [2] S. M. Cevilon, Proc. Roy. Soc. A. 190, 137, (1947).
- [3] A. W. Brewer and H. P. Palmer, Proc. Phys. Soc. B. 64, 765, (1951).
- [4] B. J. Mason and F. H. Lindlum, Rep. Prog. Phys., Phys. Soc. XIV, 171, (1951).
- [5] E. K. Bigg, Q. J. Roy. Met. Soc. 79, 510, (1953).
- [6] B. J. Mason, ibid. 78, 22, (1952).
- [7] K. Ouchi, Sci. Rep. Tohoku Univ. Ser. 5, Geophysics. 6, 43, (1954).
- [8] J. G. Bolton and N. A. Qureshi, Bull. Amer. Met. Soc. 35, 359, (1954).
- [9] R. R. Braham, B. R. Seely and W. D. Crozier, Trans. A. G. U. 33, 825, (1952).
- [10] aufm. H. J. Kampe and H. K. Weickmann, J. Met. 8, 283, (1951).